

令和3年度 第1回平塚市総合教育会議 議事録

開会の日時

令和3年11月9日(火) 13時15分から14時30分まで

開会の場所

市役所本館 3階 302会議室

会議の構成員

市長 落合 克宏 教育長 吉野 雅裕 教育委員会委員 目黒 博子
同委員 梶原 光令 同委員 守屋 宣成 同委員 菅野 和恵

関係部課長等

学校教育部長 石川 清人 教育指導担当部長 工藤 直人 社会教育部長 平井 悟
教育総務課長 宮崎 博文 教育指導課長 石井 鮮太 教育研究所長 鈴木 真吾
社会教育課長 鈴木 和幸
教育総務課教育総務担当長 太田 恵 同課主任 鈴木 俊貴
教育指導課教育指導担当指導主事 梅田 史 同課学校安全担当長 樹本 定芳
教育研究所主査 香川 良太

事務局

総務部長 高橋 孝祥
行政総務課長 石川 亜貴子 同課行政管理・統計担当長 岩田 浩二
同課主査 河野 孝

傍聴人

0人

会議概要

1 開会

総務部長

それでは定刻になりました。ただいまより、令和3年度第1回平塚市総合教育会議を開催いたします。本日はお忙しい中、またお足元の悪い中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。私は、協議・調整事項以外の部分について進行を務めさせていただきます。総務部長の高橋と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。着座にて進行させていただきます。

会議を始めるに当たりまして、配布資料の確認をさせていただきます。まず、本日の次第が1枚、構成員名簿が1枚、資料1といたしまして、「学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の導入」を片面印刷で1枚。資料2といたしまして、「令和3年度GIGAスクール構想の取り組みについて」を、両面印刷で1枚お配りしておりますが、過不足はございませんでしょうか。

なお、本日、報道機関の方が取材で傍聴されております。報道機関に限り、撮影を許可してもよろしいでしょうか。ありがとうございます。同意が得られました。

それでは開催に当たりまして、教育委員の変更がございましたので、ご紹介をさせていただきます。9月30日の任期満了に伴い、林悦子氏が退任され、10月1日からは後任として、菅野和恵委員が就任されております。では菅野委員からご挨拶をお願いいたします。

菅野委員

はい。新しく就任した東海大学健康学部の菅野和恵と申します。どうぞよろしくお願ひ

します。
総務部長

ありがとうございました。次に、落合市長からご挨拶を申し上げます。

2 平塚市長 挨拶

落合市長

皆様こんにちは。本日は公私とも大変ご多忙の中、令和3年度の第1回平塚市総合教育会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。教育委員の皆様には、日頃から子どもたちの健全な成長、また本市の教育行政の充実発展に大変なるご尽力をいただいております。この場をお借りして、改めてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて、新型コロナウイルスの感染症については、この流行に伴う緊急事態宣言が9月30日に解除されまして、全国的に新規感染者が減少の傾向になっております。平塚市におきましても、実は第5波といわれる中では大変多くの感染者が出ました。8月にトータルで1000人を超える1090人、9月に468人、10月は12人です。11月に入ってから、今のところ感染者なしということで、やっと落ち着いてきたところです。しかしながら、気がかりなのが、これからだんだん冷え込んできて、様々な感染症、インフルエンザ等々があり、そういう感染が発生しやすくなってきます。また、コロナ対策会議等でも、いつも申し上げていきますけれども、気を緩めることなく基本的な、手指消毒や、うがいなど、そういう感染防止対策をしっかりと呼びかけてまいります。

さて、このような中、各学校では感染防止に大変大きな注意を払ってもらいながら学校生活を送っていると思います。子どもたちの健康管理、それから安全確保を努めるために教職員の皆様には大変なるご尽力、ご苦勞をいただいております。改めて勞をねぎらいたいと思います。本当にありがとうございます。

一方で平塚市としては、昨年4月から今年9月までに、計6回に及ぶ新型コロナ関連の緊急対策から始まりまして総合対策の補完版まで、事業規模として総額約85億円という対策を打ちました。この中で、学校教育活動に対しては、例えば、保健衛生用品の購入経費の支援、そういうものから始まりまして「GIGAスクール構想の加速化」に至るまで、児童生徒がしっかりと充実した学校生活を送れるように、力を注いでもらうように、予算を掛けさせていただいたところです。これからまだ、もう少し先の見えない状況が続きますが、この子どもたちの教育の活動を円滑に進めてもらえるように我々も努めていきます。

さて、本日の協議・調整事項におきましては、「学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の導入」と「GIGAスクール構想の現状と課題及び今後の方向性」という2つの項目を教育委員の皆様それぞれにそれぞれの立場からお話をいただきます。学校と地域が連携するための仕組みの導入、またGIGAスクール構想によるICT機器整備は学校にとって大変、大きな変化になっています。

今日は皆様との意見交換を通して、学校生活の現状の把握や、これからの理想とする学校のあり方等につきまして、じっくりと考えていきたいと思っております。

結びに今日の会議が「未来の礎を築く教育のまち平塚」この実現に向けて、有意義なものとなりますよう、活発な議論を期待して、私からのご挨拶に代えさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いたします。

総務部長

ありがとうございました。それでは、本年度最初の総合教育会議となりますので、私の方から、名簿順にご出席の皆様のご紹介をさせていただきます。お座りになられたままで結構ですので、一言ずつご挨拶を頂戴したいと思います。ただいま落合市長と菅野委員からは、ご挨拶いただきましたので、続きまして、吉野教育長、お願いたします。

吉野教育長

教育長の吉野でございます。どうぞよろしくお願いたします。

総務部長

ありがとうございます。次に、目黒委員、お願いいたします。

目黒委員

目黒でございます。元小学校に勤めておりまして、教育委員は4年目となります。どうぞよろしくお願いいたします。

総務部長

ありがとうございました。次に、梶原委員、お願いいたします。

梶原委員

梶原です。目黒先生や菅野先生と違いまして、教育に関して全く素人ですけど、素人だからこそ見えることもあると思いますので、素人の目で教育を考えてみたいと思います。また、医者目から見て子どもたちの健康と教育、教職員の健康で何かサジェスチョンできることであらばと思います。よろしくお願いいたします。

総務部長

ありがとうございました。次に、守屋委員、お願いいたします。

守屋委員

守屋でございます。どうぞよろしくお願いいたします。私は今、子どもたちが平塚市内の小学校に2人行っております。保護者の立場から、伝えられることがあればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

総務部長

ありがとうございました。なお、本日、事務局といたしまして、市長部局、また教育委員会関係部課長及び担当が出席しておりますので、ご承知おき願います。

では、次第の3にございます協議・調整事項に移らせていただきます。ここからは、平塚市総合教育会議設置要綱第3条の規定に基づきまして、落合市長に進行をお願いいたします。

3 協議・調整事項

(1) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の導入

～地域と共にある学校づくりに向けて～

落合市長

それでは私の方で進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。まず、はじめに「学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の導入」につきまして、「地域とともにある学校づくりに向けて」ということをテーマに考えていきます。まず、教育指導担当部長から本件に関して、簡略に説明をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

教育指導担当部長

それではご説明をさせていただきます。中央教育審議会の答申を受け、平成29年3月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、学校運営協議会を設置することについて、教育委員会に対して努力義務が課されました。また社会教育法も改正され、教育委員会による地域住民等と学校との連携協力体制の整備や、地域住民等と学校との情報共有や助言等を行う「地域学校協働活動推進員」に関する規定の整備が行われました。平成29年度告示の学習指導要領においては、「社会に開かれた教育課程」を重視し、育成を目指す「資質・能力の3つの柱」等、重要な事項のすべてを家庭や地域社会と共有し、実現していくことが期待されています。

そこで本市では、地域の既存の組織「公民館」と「地域教育力ネットワーク協議会」の仕組みを生かしながら、学校・地域が一体となり、社会総がかりで、学校運営の改善や、子どもたちの健全育成を推進していけるよう、学校運営協議会を導入していきます。令和4年度から、横内小、八幡小、春日野中、大野中において、学校運営協議会を設置し、令和5年度以降、順次、市内全小・中学校に広めていきます。なお学校運営協議会を設置した学校から、学校評議員制度を廃止し、滑らかな移行を目指します。

落合市長

ありがとうございました。教育改革、それから地方創生などの観点から、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘をされているというお話でありました。子どもたちを取り巻く環境につきましては、学校が抱える課題は大変、複雑化・多様化をしています。本市の現状について、教育委員の皆様がどのように捉えていただけるか、お話を聞かせていただきます。それでは教育長から順番に、お話をください。よろしく申し上げます。

吉野教育長

それではよろしく申し上げます。現在、平塚市では校長が必要に応じて学校運営に関する意見を聞くことができる、地域の方々に構成をされている「学校評議員制度」がございまして、各学校では地域の協力を得ながら、開かれた学校づくりを進めているところであります。市長からもお話がありましたが、教育のICT化、子どもの安心安全、学力向上、放課後の居場所づくり、あるいは外国につながるのある家庭の増加など学校の抱える課題は、多様化をしております。家庭と学校だけでは解決できない難題も、現在大変増えていると感じているところであります。

落合市長

ありがとうございました。それでは続いて守屋委員、お願いいたします。

守屋委員

急速なICT化は現代の大きな課題の1つであると思っております。教える側には一定のスキルが必要不可欠にもかかわらず、研修等を受ける時間等もなかなか難しい状況があります。ICTを活用した授業をどのように用意していくかの議論の中で、準備する時間を確保していくことの重要性和、取り扱いに慣れている先生がいる反面、不得意な先生もいらっしゃるのだと思います。このような状況の中で地域の人たち、担い手の人たちに、その役割を担える人がいるのであれば、地域の中の人たちを活用していくことというのが、これから大事になるのではないかなというふうに思っております。

落合市長

続いて、目黒委員、申し上げます。

目黒委員

昨年はコロナ禍で行われませんでした「全国学力・学習状況調査」が今年は5月に行われました。先日その結果のご報告も受けました。この調査で測れるのは、学力の一側面であるとは思いますが、やはり今取り組むべき大きな課題の1つに、学力向上が挙げられるのではないのでしょうか。教員の指導力、授業力の向上が大切なのももちろんですが、家庭や地域からのバックアップなど、子どもを支えるものがあれば、子どもたちにより力がつくのではないかと考えています。今、共働きで忙しい保護者がほとんどです。現在すでに平塚でも、様々な地区で実践されておりますけれども、放課後、地域の大人が宿題や自主学習をサポートしてあげたりするような、そんな子どもの居場所がもっと増えるといいなと考えています。

落合市長

ありがとうございました。続いて、梶原委員、よろしく申し上げます。

梶原委員

現在学校の抱えている課題は多種多様で、先生方の負担が増えていることを危惧します。教育に全力を尽くされていることには感謝いたしますけど、産業医の立場から見ますと、決して好ましいことではないと思います。学校の教育、子どもの教育というのは学校だけに任せるのではなくて、ある面、昔のように地域のみならず、子どもを育てるべきではないかと考えています。そのように意識改革していくことで、先生方の働き方を見直すことができますし、先生方が子どもに向き合う時間的な余裕が生じて、その結果として、学力向上やその他の問題解決にもつながるのではないかと考えています。よろしく申し上げます。

落合市長

ありがとうございました。それでは菅野委員、お願いします。

菅野委員

皆様のお話を伺っていて、子どもや学校の抱える課題の解決や、未来を担う子どもたちの豊かな成長というもののためには、社会総がかりでの教育の実現が不可欠であるというふうに感じました。子どもたちが社会で生き抜く必要な力を地域で育むという必要を、今まで以上に強く感じました。

落合市長

ありがとうございました。教育長、お願いします。

吉野教育長

皆様のお話を伺い、本当にその通りだと思っていました。実際に平塚市の社会教育委員会会議では、平成29年度に「地域学校協働活動ひらつかスタイル」といったものが報告をされております。また令和元年10月に開催されました「平塚市立学校事故・事件等調査委員会」で提出をされました検証報告書には、各学校、あるいは園が保護者や地域住民等に協力を求める際の体制の整備に向けまして「学校運営協議会制度の導入」を検討することが提言をされています。そういった意味では、今まさに「地域とともにある学校づくりというのが求められる」と言っているのではないかなと思っております。

落合市長

ありがとうございました。今、教育長からお話がありましたけど、「地域学校協働活動ひらつかスタイル」、これに「ひらつかスタイル」という言葉を使っていますが、その辺につきまして社会教育部長から説明してもらえますでしょうか。

社会教育部長

世代を超えた地域・学校の協働による「ひらつかスタイル」についてですが、地域と学校が連携協働し、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えていく活動である「地域学校協働活動」を推進するというものでございます。

具体的には、本市の特色である、ほぼ1小学校区に1館ある「公民館」、中学校区ごとに設置され、地域の特色を生かした世代間交流や体験事業を行っている「地域教育力ネットワーク協議会」通称「教育力ネット」、そして「学校」の三者が主体となって活動を進めていこうというものでございます。お手元の資料1を見ていただけますでしょうか。右側の地域学校協働活動に様々な地域住民や団体がネットワークを構築している絵がありますが、ここに本市の強みである、公民館、教育力ネットが入ってきます。

「ひらつかスタイル」を前進させた先に見えるのが、学校運営協議会と、地域がともに手を携え、協力していくという姿であり、この資料にあるような社会総がかりで子どもを育てる仕組みであると考えています。

梶原委員

よくわかりました。未来を担う子どもたちの育成のために、長年平塚で育まれましたこれらの組織を活用し、新しい仕組みを作っていくことだと思えます。もちろん、過去にとらわれずに、全く新しい試みをするのも大切ですけど、何でも新しいものをすればいいというものではございませんし、現在ある組織を活用して、緩やかでも、確実に「ひらつかスタイル」を進化させていただければ幸いです。よろしく願いいたします。

落合市長

ありがとうございました。実は私は公民館の主事として、5年間働きましたので、全国社会教育主事の研修に行くと言われるのですが、小学校区に1館、公的な公民館があるところは全国では珍しいのです。大人の学習でもある社会教育、それが地域づくりの拠点となります。地域づくりの中には、この「公民館」ですとか、「教育力ネット」ですとか、こういうものをしっかりと生かして地域づくりを一緒になって進めようということは、私のこの市政の基本的な方向性とも一致をしていると思っております。他市では、あまり例がありませんので、これはイコール「平塚市の強み」であるとも言えますので、この「ひらつかスタイル」を生かして、しっかりと進めていくのが必要ではないかと思ってい

ます。

それと先ほど教育長から、現在、学校評議員制度によって、地域の協力を得ながら、開かれた学校づくりをしているというお話がありました。学校評議員制度と学校運営協議会の違いは何なのか。学校運営協議会には、どのような機能があるのか、その辺の違いや機能について、教育担当指導部長から説明をいただけたらと思います。

教育指導担当部長

それではご説明させていただきます。学校評議員制度は、校長が必要に応じて、学校運営に関して、保護者や地域の方々の意見を聞くことを目的にした制度でございます。

一方、来年度以降、順次設置していく予定の学校運営協議会は、委員となった保護者や地域の方々が一定の権限を持って、学校運営に参画することにより、学校の教育目標・ビジョンを共有して、社会総がかりで子どもたちの健全育成や学校運営の改善に取り組むことを目的とした合議制の機関となります。

このような学校運営協議会を設置した学校のことを「コミュニティ・スクール」と呼んでおります。学校運営協議会は、主に3つの機能がございまして、1つ目としては、校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること。2つ目として、学校運営について教育委員会または校長に意見を述べるができること。3つ目として、教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べるができるというものです。

落合市長

今、教育指導担当部長から、この学校評議員と学校運営協議会の違いとか今回の学校運営協議会の機能についてお話がありましたけど、皆様、何かご意見がありますでしょうか。菅野委員、お願いします。

菅野委員

学校の教育目標やビジョンというものを共有することになれば、今まで以上に学校と地域の連携というものが深まるだけでなく、みんなで子どもたちの成長を見守るといったような意識が強まるのではないかと思います。学校運営協議会の設置によって、地域の方々の当事者意識というものが向上し、役割分担が明確になることで、より地域ぐるみの社会総がかりの教育というものの実現に近づくのではないかと期待感を持ちました。

落合市長

ありがとうございました。その他、委員さん何か。目黒委員、お願いします。

目黒委員

学校現場にいたものとして、お話をさせていただきたいと思いますが、これまでも「開かれた学校」に向けて、学校、PTA、地域でともに努力をしてきました。例えば校長と担当職員、PTA役員等が地域や各種団体の行事や会議に参加することもありますし、地域の方に講師やボランティアをお願いしたり、また学校の施設を使っていたり、学校の行事に参加していただいたりと積極的に関わってきています。また学校は教育活動を理解していただくように努めて、課題を共有して、ともに対応してまいりました。ですので、地域とともにある学校という意識は持っていると思います。

ただ、先ほどから話に出ておりますように、今の子どもたちが抱える課題は複雑化、また多様化していて、学校だけで解決するのは、なかなか難しくなっているかと思います。今までやってきた学校づくりを、さらに推進するため、また、学校と地域がさらに連携を深めていくために、学校運営協議会を設置して、コミュニティ・スクールにしていくのだと考えれば、大きな意義があると思います。

落合市長

目黒委員のおっしゃる通りだと思います。その他、ご意見ありますか。守屋委員。

守屋委員

地域が抱える問題というものが学校の問題につながりやすいということになるかと思えます。このコミュニティ・スクールが果たす役割というのは非常に大きいものがあると感

じます。特に、地域性を生かした多様な人材をどのように協議会委員に選ぶのかというところの人事が非常に大事になると思います。また人事については教育、まちづくり等の団体だけではなくて、学区内にある企業、そして店舗などの人たちも参画をしていただくことで、そのつながりから、校外学習や企業訪問等の子どもたちの学びにつなげていくようなシステムを作ってはどうかと思います。このような地域を構成する人や企業が集まって、学校が地域のハブ的な役割を担うのが望ましいのではないかとこのように考えております。

落合市長

ありがとうございます。守屋委員の指摘も本当にうなずけるものであります。その他、菅野委員、お願いします。

菅野委員

ただ少し気になるところがありまして、その学校運営協議会の3つ目の機能である教職員の任用に関して意見が言えるというところについては、人事が混乱するのではないかとこのような不安感を持ちました。そうならないよう、混乱を未然に防いでいくというように必要があるかと思いますが、何か対策を講じる予定などはありますか。

落合市長

それでは今の質問に対して、教育指導担当部長、お願いします。

教育指導担当部長

現在、庁内で審査中でございますが、教育委員会規則に「対象学校の運営に関する基本的な方針を踏まえ、対象学校及び当該協議会が実現しようとする教育目標等に基づき職員を配置するための建設的な意見」と「対象学校の教育上の課題を踏まえた一般的な意見」と記す予定であります。

このようなことをすることによりまして、例えば「誰々先生にうちの学校に来て欲しい」というような、個人の特定をせず、例えば「環境教育に力を入れていこうというビジョンがあるので、環境教育に精通した教員を配置して欲しい」というような意見なら言うように限定することを考えているところでございます。

落合市長

ありがとうございます。私も菅野委員と同様に人事に対して何か言えるのかとも思ったので、懸念しましたが、今の話でわかりました。目黒委員どうぞ。

目黒委員

すみません。今のご説明伺って、確認ですが、ということは、校長が描く学校運営上の希望を後押しするようなことができるということでしょうか。

教育指導担当部長

はい。この3つ目の機能につきましてはそのようなことを想定しまして、そのあたりも丁寧に説明をしながら進めてまいりたいと考えております。

落合市長

その他、何か、ご意見ありますか。梶原委員。

梶原委員

皆様のお話聞いて、この制度にメリットがたくさんあるということは、よく理解できませんけど産業医の目で見ますと、新しい組織が立ち上がる時にはやはり、かえって先生方の負担が多くなるのではないかとこの危惧もありますし、また同時に地域側にも負担感が生まれるのではないかとこの心配もありますので、制度の実施とともに負担の軽減についても、検討いただければ幸いです。よろしく願いいたします。

落合市長

今、梶原委員がおっしゃった通り、やはりいろいろなことを始めると、どうしてもスタートする時にはいろいろ教職員の負担も出てくるし、例えば、委員を出してもらった地域への負担感も出てきます。既存の会議で組み入れられるものもあると思いますが、例えば、会議が多くなってしまって、学校、地域の方の負担が増えてしまうのではないかなという

心配もあります。地域の同じ方が小中学校それぞれの学校運営協議会に参加するということが可能になるかもしれません。けれど、そういう時には、やはり学校運営協議会と教育力ネット等、それぞれの会議の目的をはっきりとさせて、ちゃんとしたすみ分けをすることで混乱を招かないようにする必要があります。それから、導入に当たっては特に地域には、地域を支える団体もたくさんありますし、それから見守る機関もありますので、説明を十分にさせていただいて、それぞれ情報連携をしてもらいながら、誤解や混乱がないように進めてもらいたいと思います。何かご意見がありましたら、守屋委員。

守屋委員

協議会のメンバーの選定についてのところになります。中学校区それぞれに複数の小・中学校があるわけですが、それぞれの学校における協議会では、メンバーがすべて重なることも想定されると思います。さらには学校の問題点が、小学校、中学校それぞれ相違があるにしても、その学区内の地域が抱えている問題、課題というのは同じになる可能性があると考えています。他市の事例や、令和4年度から学校運営協議会を設置する4校の実践から分かる問題点や課題を踏まえながら、効率的な制度を構築していくことが大変重要になるかなと思っています。

落合市長

守屋委員の言われる通りだと思います。やはり重なる部分もたくさんあるし、それから、同じ課題を取り扱うことになるかもしれない。そういうことも含めて、今度4校から始まるということですので、いろいろな実体験を合わせて、より効率的な、その地域の中の関わりというのを模索していってもらう必要があるのかなと思います。

吉野教育長

新しい組織を立ち上げるとなると、それなりの努力も必要でしょうし、既存の会議を整理したり、各機関への説明等も必要になってくると思います。ただ軌道に乗ってしまえば、先ほどの菅野委員の話もありましたが、それぞれの当事者意識が向上し、役割分担が明確化することで、整理される部分も増え、学校側の助けにもなりますし、地域にとっても長い目で見て、大変大きなメリットがあるのではないかなと感じているところです。

また子どもたちが信頼できる地域の大人と関わる機会を作ること、子どもたちの自己肯定感、主体性、多様性、協調性、こういったものを身に付ける機会がたくさん設けられるようになるのではないかなと思っています。そしてまた、そのようにして育った子どもたちは、地域を愛し、将来自分が育った地域のために動いてくれるのではないかなという期待感も持っているところです。

落合市長

ありがとうございました。その他、目黒委員。

目黒委員

学校の現状や、教育方針、運営方針について、さらに地域の理解が深まって、学校の応援団として、互いに、協力体制が続けられるといいなと思います。そして、子どもたちの学びや体験が、より充実していくことを願っています。そのためには、学校と地域がより深い信頼関係を構築することが必要となってくると考えています。

落合市長

目黒委員、ありがとうございました。大きくまとめもいただいたような形ですが、本当に皆様、課題につきましては、ご意見ありがとうございました。世の中全体をみると少子高齢化が今、進んでいます。それからもう1つは、地域社会のつながり、支え合いが、だんだん希薄化しています。こういう要因で地域の教育力も低下しているのではないかなとされているところでもあります。先ほどお話ししたけども、学校の抱える課題が本当に複雑、多様化をしている。1つは、それぞれ学校だけ、それから家庭だけでは対応しきれない問題というの、出てきているのが現実であります。ですから、なおさら学校と地域が相互に連携をして協働して、社会全体で未来を担う子どもたちを育成する。地域の教育力を向上させて、地方創生の実現を図る。これがやはり必要ではないかということ

が今回、委員の皆様のお話から確認ができたのではないかと考えています。

実は私も学校評議員をやったことがありますけれど、地域は結構、学校にかかわりたいところもありますので、それをもっと上手に活用して、是非とも地域から学校へ、学校から地域へというお願いだけではなくて、同じ課題を共有して、意識改革をしていながら一緒にやっていくという姿勢を、よりしっかりと作っていくことがこの協議会の目的ではないかと考えています。そして、地域と学校の絆が深まって、一緒に学校を作っていく、運営していくということになると、先ほど「ハブ」という話がありましたけど、学校を核としたまちづくりがしっかりとできるようになっていくのではないかと私は思います。

本市としては数年間かけて、全市に学校運営協議会を設置することを最後に確認しまして、本件の協議を締めたいと思います。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

(2) G I G Aスクール構想の現状と課題及び今後の方向性

落合市長

それでは続けて、もう1つの「G I G Aスクール構想の現状と課題及び今後の方向性」について、これから皆様と意見交換をさせていただきます。まず、「G I G Aスクール構想の現状課題等」について、教育指導担当部長の方から説明をお願いします。

教育指導担当部長

それでは説明をさせていただきます。全児童生徒への学習用タブレット端末の配備と、高速大容量の通信ネットワークの整備が、令和2年度中に完了し、今年度より、各学校での活用が始まったところでございます。活用の状況について7月に文部科学省が行った「端末の利活用調査」の本市の結果によりますと、小中学校ともに、全校で利活用が開始され、小学校6年生では、「毎日活用している」と回答した学校が、約68.9%。「週に数回活用」と回答した学校が約27.5%となり、中学校3年生では、同様に、「毎日活用」が約43.7%。「週に数回活用」が50.0%という結果でした。

また、同時に行った市独自のアンケート項目で、よく活用している機器やアプリ等の回答結果は、市単独で導入した大型モニターが、98%。カメラ撮影機能が同じく98%。動画撮影機能が94%。GoogleMeet（ビデオ会議システム）が84%となりました。教員が日常的にICTを活用できることが、G I G Aスクール構想の実現を目指す上で非常に重要であると認識しており、教員の負担を考えつつ、研修等を計画してきたところでございます。

昨年度の導入時に、各学校にタブレット端末の操作研修を1回、授業支援ソフトの操作研修を1回ずつ行いました。今年度に入りまして、同様の研修を2回、今年度の新採用者等の希望者を対象として行いました。また、授業支援ソフト操作研修を4回開催したところです。

保護者等への周知については、市のホームページ上に「平塚市G I G Aスクール構想」を公開するとともに、活用に当たってのルール等を明記した保護者向け文書「ICT活用教育の基本ルール」を各学校が作成し、配布をしております。

臨時休業等や、やむを得ず登校できない児童生徒への対応の1つとして、家庭でのオンライン学習の想定をしております。具体的には、オンラインビデオ会議システムを用いた健康観察や学習指導、オンライン学習ドリルを用いた学習の実施です。

9月には、児童生徒にタブレット端末を持ち帰ってもらい、家庭のWi-Fi環境への接続テストを実施しました。結果として、Wi-Fi環境がない等の理由で接続できない家庭は約5%ということがわかりました。各学校には、全校児童生徒数の約1割のポケットWi-Fiルーターを配備しており、環境が整っていない家庭には、ルーターを貸し出していく予定です。

運用開始から見てきた課題とその対応ですが、文科省の目指す「学習活動の一層の充実」と、「主体的対話的で深い学びの視点からの授業改善」のためには、これまでの教育実践の蓄積にどのようにICT機器を掛け合わせていくかが重要となります。しかしながら、教員一人一人の持っているICTスキルには個人差があるのも事実です。そのための教員への研修等を効率的に行っていくことが求められております。

そのためには、「ここが知りたい」「こういう場合はどうすれば良いのか」という疑問や課題に対応できる教員研修をより一層充実させていくことや、効果的なICT活用事例や指導事例を、教育委員会より紹介するなど、サポート体制の充実を図っていく必要があります。また、臨時休業等非常時におけるオンライン学習へ教員が対応できるように、オンラインを活用した学習のモデル例や必要な手順等をまとめたマニュアル等を作成しています。

次に、児童生徒への指導上の課題として、「低学年のキーボード入力の指導が難しい」「どの学年でどのくらいのスキルを身に付けさせたら良いかわからない」などの声もあり、系統的に指導する必要があります。これらについては発達段階に応じた育成すべき情報活用能力をまとめ、市内である程度統一した指針を示すなど、対応を考えております。

不登校児童生徒への支援も大きな課題の1つです。オンラインを活用した学習支援は有効な手立ての1つではありますが、登校できない子どもたちの状況は様々であり、関係各課や、学校と連携をとりながら、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を考えていく必要があります。

なお、ICT機器やアプリは、非常に便利な機能を備えておりますが、児童生徒の安全面等を考慮して、ネット検索に対するフィルターなど制限している機能もあります。予測不可能なこれからの社会を生きていく子どもたちを育てるためには、情報活用能力の向上が不可欠であり、とりわけ情報モラル教育の充実を考えていく必要があります。特に個々のIDアカウントやパスワード等の取り扱い等については、慎重に取り扱うべきものであるという認識を子どもたちの成長段階の早期より持つべきであると考えます。そのためには児童生徒だけではなく、教職員も含めた意識改革が必要であり、そのための研修会の開催や情報提供等を行っていきたいと考えております。

落合市長

詳しい説明ありがとうございました。このGIGAスクール構想につきましては、以前にもお話したと思いますが、このコロナ禍の中で、学校が休校になってしまうことが、私は念頭にありました。また、もう1つは文科省の方からも、臨時交付金というものがコロナ対策で、県を通して市の方にもまいりましたので、今回、将来の子どもたちのために何とか充実をさせて、早期にやってもらいたいということで、無理をしてもらい申し訳なかったのですが、教育長、教育指導担当部長、それから教育研究所長には整備してもらいました。何とかタブレットを全員配布と、平塚の場合は、65インチの大型モニターを各教室に入れて、それを使って勉強できているとのことでした。

よく思うのですが、このコロナというのは、大変、厳しい感染症でありますけれども、これをきっかけにやはり、社会のいろいろな方向性をしっかりと変えていく、効率的に変えていく、行政もですが、やはり教育もこれをきっかけにより一歩、効率的に前に進めるような教育のあり方を進めていくことが必要ではないかという思いが強くなりました。私としては教育委員会には頑張ってもらったので、お礼を申し上げたいと思っています。

1つ、私は前にもお話ししましたが、このICT環境の整備というのは、子どもたちが勉強する手段であって、入れたことが目的ではないのです。だから、この先、平塚を支えてもらう、日本を支えてもらう子どもたちのために、この豊かな創造性を備えて、持続可能な社会の創り手として、未来、将来、自立的に生きてもらう、それから社会の形成に資するためのいろいろな資質や能力を養ってもらする必要があります。そのためにICTの適切な活用を、進めて欲しい。

青年会議所での「市長との対話」で、この「GIGAスクール」というか「デジタル教育」についてのいろいろな意見を、子どもたちが言ってくれた中で、やはり「子どもたちの方が使いこなしている」と。逆に、変な話ですけど、「先生大丈夫かな」というようなことを言われていたことがありました。先ほどの教育指導担当部長から、お話もありましたが、結構しっかりと教員の研修をやってもらって、子どもたちにしっかりと教えらえる

ような研修を実施しているところでございます。未来を担う子どもたちを育てるための第一歩が始まった、そんな年ではないかなというふうに思っています。

まさに平塚市の子どもたちがこれから10年後、20年後の社会を、たくましく生きてもらうための大きなツールとして使ってもらえれば一番ありがたいと思っています。ここからは、教育委員の皆様から「GIGAスクール構想」につきまして、ご意見等ありましたら、お話をいただけたらと思います。どなたかありますでしょうか。目黒委員。

目黒委員

よろしくお願ひいたします。元教員という立場で感じていることをお話しさせていただきたいと思ひます。ICTの活用については、教員がこれまで培ってきた教育技術、教育実践とICTのベストミックスといひますか、いいところ取りをして、より良い教育活動が展開できたらいいと思ひます。ICTの導入によって、例えば、児童生徒の学習への興味関心を高めることができたり、学習に動画などを使うことによって、親しみやすく、わかりやすく、また繰り返し見ることができたり、英語学習を通して、世界と繋がることができたりと、夢はもうどんどん広がっていくのですが、先ほどの教育指導担当部長のお話にもありましたように、健康安全面、使い方、モラルと課題も多いかと思ひます。いじめが助長されたりとか、操作技術等、新たな能力差が生じたりしないように、着実に進めていっていただけたらと思ひます。

また、先生方にとっては、新しいツールの導入ということで、何か「一気にこう入ってきたな」という印象もあるのですが、使い方を習得したり、新しい授業づくりを研究したりと、不安や負担が大きいことと思ひます。それを少しでも減らすために、すでに対策をいろいろと取っていただいているようですけれども、特に「授業づくり」について相談できたり、操作方法について相談できたりと、人的配置も含めて、困ったときにすぐに相談できる仕組みを、より充実させていっていただけたらと思ひます。

また、先ほどのお話から、家庭でのオンライン学習の準備も着々と進んでいるようですが、学校での活用と同時に、いろいろな理由で登校できない子どもたちのためにも、有効に活用できるようにしていって欲しいと思ひます。学習の保障であったり、外部の人との関わり、その機会になったりと、有意義なものになったらいいなと願っています。

落合市長

ありがとうございました。続けて、梶原委員、お願ひします。

梶原委員

医者立場から健康面等について、お話しさせていただきたいと思ひます。GIGAスクール構想において大型モニターを、各教室に採用するなど、平塚市の対応は非常に素晴らしいものかと思ひます。特にこのコロナ禍の中においては、非常に役立ったのではないかと思ひます。ただデジタル画面を長時間見つめるといふことは健康にも影響があります。いろいろな面で気をつけなければならないことがあるのではないかと思ひます。

たまたま、私の孫が父親の仕事の関係で、小学校4年生からイギリスへ行って、今年の秋に日本でいう高校生になったのですが、イギリスはご存知のように、日本と比べると圧倒的に新型コロナの患者数が多いので、早い時期から学校閉鎖になりました。ただ、学校閉鎖された後すぐに、いわゆるオンライン授業が始まりまして、もう翌日から始まったということです。ただし、孫の話ですと、オンライン授業といふのは、対面授業と比べて、やはり集中しづらいといふことと、目が疲れやすいといふことを言っていました。オンラインは、そういう欠点があるようです。ただ、良いところはどこでも授業受けられるといふことだと。中学の時に、クラスに何人かのイギリス以外のヨーロッパとか中東から来ている留学生がいたのですが、その子どもたちは、学校閉鎖になったらすぐ自分の国に帰って、自宅で授業を受けたみたいです。孫も日本に帰って来た時があるのですが、その時にはオンラインで授業を受けていましたが、イギリスと日本は時差がものすごく大きいものですから、真夜中に授業を受けたといふことで、少し疲れるけど授業的には全然問題

なかったと言っていました。

ただ、疲れやすいということもありますし、オンラインを含むGIGAスクール構想の授業を受けた場合には、やはり授業の合間には遠くを見て、目を休めることも大事だと思います。同じ姿勢で、どちらかという、うつむき加減で画面を見るわけですから、長時間だとやはり、疲れやすくなります。授業の合間に少しストレッチをしたり、体操や運動をしたりすることが大切ではないかと思えます。

また、オンラインの場合、先ほど出ていましたけど、どこでも授業を受けられるということで身体的な都合とか精神的な都合で登校できないお子さん、特に長期欠席のお子さんには、使い方によっては非常に有意義なのではないかと思えます。

我々、医者現場においてもデジタル化が急速に進んでいます。カルテはもちろんですけど、血液検査の結果や心電図、胸部写真、レントゲン写真とか、内視鏡写真などもすべてコンピューターに取り込むと、すぐに見ることができるので、いわゆるペーパーレス、フィルムレスの時代になってきました。おそらく間もなく、コンピューターそのものが、ある程度診断してくれるようになるのではないかと思えます。当然ながら、教育現場においても、今後ますます、その波が大きくなっていくのではないかと思えます。

新しいことをするには、やはりエネルギーが必要です。GIGAスクール構想においても、今は先生方に負担がかかって、ご苦労をかけていると思えますけど、その先に子どもたちの笑顔が待っていると思えます。また、この構想そのものが先生方の働き方改革になるのではないかとも思えますので、よろしく願いしたいと思えます。

落合市長

梶原委員、ありがとうございました。続いて、守屋委員。

守屋委員

それでは、よろしく願いいたします。保護者としてというところで9月に子どもたちがタブレットを持って帰ってきて、家で動作チェック等している中で思ったのは、やはり「子どもは早いな」と感じました。学校で当然ご指導いただいて、持って帰ってきているとは思いますが、何を言うでもなく自分でつけて、自分でやるというところで、私には「何やっているのかを見せてくれない」というような状況でした。

自分でやることは良いと思う反面、これは保護者の仲間内の方から聞いた話によると、学校の休み時間等に、タブレットをやってしまって、「子ども同士のコミュニケーション」という、教育上すごく大事な必要な時間にもかかわらず、中にはそのように「自分対タブレット」になってしまうようなことがあるということでした。学校の中でも使用時間を設定したりとか、休み時間はやめようと決めたりだとか、先生方も大変苦労されているような話を聞いております。そういう新たな問題はこれからもたくさん出てくると思えますので、現場でやられている先生方の対応はもちろんですけど、いろんな事例も含めて、吸い上げていく必要があると思えます。

もう1点が、これは私が小学校、中学校の頃で考えたときに、本当にICTがなくてもすばらしい授業をされていた先生がたくさんいらっしゃって、「この先生の授業は吸い込まれるようだ」といった先生もいらっしゃいます。そういう授業スキルをずっと積み上げてきた先生方もいられるので、とにかく、こういうことが出たときに、0から1を生むようなイメージを取ってしまうと、今まで良かったものを生かすきれいなことにはならないで欲しいとは思っています。その先生が積み上げてきた素晴らしい授業に「ICTがどう乗っかるのか」ということが、本当にこれから大事になってくるように思えます。その1つで、今もうやられていると聞いておりますが、本当に様々な事例がこれからたくさん出てくると思っています。

配備をされたということになれば、これからどういう授業の展開をしていくのか、これは先生方一人一人もそうですし、他市の事例も含めて、どういうふうなやり方があるのかということをしっかり吸い上げて、先生方にフィードバックをしていくという、この循環をどうやって作っていくのが、これから本当に大事になっていきます。ICT教育

については、多分この循環を、より精度を高くやれたところが、きっと先に進んでいくのではないかと考えています。ぜひ、そんなことを期待しながら、素晴らしい「教育のまち平塚」と市長もおっしゃっていましたが本当にそういうまちとして、たくさんの方が平塚に住みたいと思ってくれるようなまちになる。それが教育の一番の大事なところかなと思いますのでよろしく願いいたします。

落合市長

はい。守屋委員、ありがとうございました。続いて、菅野委員、お願いいたします。

菅野委員

私の方からは大学でオンライン授業を実際に行ってきたという立場からお話しさせていただきます。私はこの小中学校の「GIGAスクール構想」というのはすごく可能性を感じていて、どんどん進めていただけると良いのかなと感じています。

大学では、オンライン学習は進んでいて、今、学内で話題になっている言葉で「反転授業」という言葉があります。教員が授業に関するレクチャー部分、講義の部分を動画であらかじめ配信して、それを学生が自宅等で視聴する。教室の中では何をするのかというと、教室の中では教室の中でしかできない学生同士のディスカッションとかグループワークとか、プレゼンテーションとか、そういったアウトプットの部分をすごく充実して行っています。そのような反転授業の取り組みが「すごくいいね」と言われていて、進められており、教室の中を見てみると、学生同士の学び合いや、分かち合いというものが進められていますし、「対話的で、深い学び」というのが、進められてきていると感じて、コロナ前とは、学生の教室での様子が違ってきていると感じています。

また、その反転授業の他に「ブレンディッドラーニング」という言葉も結構話題になっていて「ブレンド型学習」とも言うのですが、いろんな学習形態によって、レクチャーの学習やグループワークの学習とか、ビデオの学習とかいろんな学習形態がある。それぞれの学習形態の良いところを採用して、混ぜ合わせて最大の学習効果を引き出していくというものです。教員自身も「発想を転換して、学生教育を計画していこう」という話題になっていて、コロナはコロナで、ものすごく大変ですけども、「デジタル化」ということにおいては、実はこのコロナのパンデミックに少し後押しされたらと大学教育では感じているところなんです。

ただ、小中学校のお子さん方と大学の学生で、同じことをしると言っても、できるわけではなくて、やはり大学生は一応学習ということに関しては自立しているので、そのまま小中学校でできるとは申しません。やはり「デジタル学習」というのは、これからのデジタル社会を生きる子どもたちにとっては、ぜひ積極的に学んでいって、活用して欲しいことだなと感じています。

あともう一つ、「デジタル学習」「GIGAスクール」を進めていくに当たって、いろんな子どもたちの学び方の多様性というものを考慮することができるのではないかと感じています。教室の中には、ちょっと学習につまずきを持っているお子さんとか、外国につながるのあるお子さんとか、先ほど長期欠席をしているお子さんという話もありましたけれども、そういったお子さんの学び方の個性に対応できると思います。デジタルのタブレットを使って、デジタル教科書でルビを振って、読みやすくなったり、ちょっと音声を録音してみたり、メモを取りやすくしてみたりということができると考えると、やはり学び方の多様性というものを考慮する際に、使い方によっては、すごく子どもの学びを広げていく、つなげていくものではないかなと思っています。ぜひ、平塚市は「教育のまち平塚」ということで、デメリットのある部分もあると思いますが、そういうところに気をつけながら、進めていただけると良いと思いました。

落合市長

ありがとうございました。今、目黒委員からは小中学校の教員の経験の立場から、それから梶原委員からはドクターの立場から、それから守屋委員からは実際に子どもたちがいる保護者の立場から、そして、菅野委員におきましては、大学の学生を教えている立場か

ら、いろいろご意見をいただきました。確かに冒頭、申し上げましたけど、導入したのが、すべてではなくて、これからどういうふうに生かしていくかというのが、これから平塚を「教育のまち」に、しっかりと押し上げていくための大きなツールになるのではないかなと思います。メリットもありますし、それから、デメリット、こういうところが課題だということもありますので、ぜひその辺を参考にしてもらって、この「GIGAスクール」を進めてもらえれば、ありがたいと思います。それでは最後に、教育長からお話いただきたいと思います。

吉野教育長

新学習指導要領がここで改訂をされました。そこでは情報活用能力がすべての学習の基盤となる資質能力として位置付けられるとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められています。その実現のためには、1人1台のタブレット端末は、必要不可欠なツールの1つであると考えております。

私も実際に小学校を訪問させていただいたのですが、子どもたちがタブレット端末を使って、課題に対する自分の考えをまとめ、先生に提出をしたり、体育の動画を見ながら、自分のペースで課題に取り組んだりなど、いろんな姿を見せてもらいました。また中学校では、ある課題に対して、タブレット端末で個々に検索を行い、それを基に自分の考えをまとめ、グループで共有したり、理解を深めたりと、そんな協働的な学習へと発展させる例もあると聞いているところです。

こういったように平塚市の「GIGAスクール構想」は、これまでの導入の段階から、活用の段階へと移行しつつあると思っております。今後はより効果的なICT活用の授業づくりをどうやって広げ、より良い実践例を市内全体にどう展開していくかが、教育行政としてやるべきことであると考えています。そしてそのために、教職員の皆様に対して、どういうふうにしたら、よりよいサポートができるのかを、教育委員会で検討していかなければいけないと思っております。

これから10年先、今の子どもたちが社会人となる時は、今よりももっと予測不可能な社会になると言われています。情報活用能力は、そんな時代を生き抜くための必要不可欠な力になると思っております。将来を背負って立つ子どもたちに、そのような力をつけるため、教育委員会と学校が密に連携をとりながら、これからもGIGAスクール構想を着実に推進してまいりたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

落合市長

教育長、ありがとうございました。この「GIGAスクール」におきましては、本当にコロナを契機に、ぐっと進んだ事業で、何回も申し上げますけども、1つは教育のあり方や将来を見据える中ではチャンスの1つではないかなと思います。今、委員の皆様や教育長からいろいろお話がありましたが、これを上手く活用して、将来の子どもたちの発展のために使ってもらえたら、私としてはありがたいと思っております。それではこの「GIGAスクール」に関する協議についてはこれで終了させていただくということでよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

それでは協議・調整事項につきましては、以上2点となります。今回取り扱いましたこのテーマにつきましては、いずれもこれからの教育行政分野において、ますます重要度が高くなっていくものだと考えておりますので、今回のこの話し合いは大変有意義な時間であったと思います。改めて御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

平塚の未来を担う子どもたちの笑顔のためにも「コミュニティ・スクールの導入」、それから「GIGAスクールの構想の発展」、これは私ども行政で、しっかりと進めるとともに、教育委員会とより連携して、しっかりと方向性を確認しながら進めてまいりたいと思います。今後とも教育委員の皆様のご協力もお願いを申し上げたいと思います。ありがとうございました。では、お返しします。

4 閉会 高橋部長

ありがとうございました。それでは以上をもちまして、令和3年度第1回平塚市総合教育会議を終了させていただきます。委員の皆様本日はどうもありがとうございました。

以 上